2015年（平成27年）
第86号
（2月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

1・17 阪神・淡路大震災 20 年慰霊式典　神戸教会で開催

1月 17 日、神戸教会において、近畿支教区の「阪神・淡路大震災 20 年慰霊式典」が営まれ、庭野光祥次代会長が臨席しました。

式典は、大震災で犠牲になられた方々への慰霊を込めて、新成人を中心に青年部員 62 人による献灯の儀が行われました。続いて読経供養が行われました。

その後、遺族代表 11 人による献花に続き、新成人二人による実践の誓いと、被災した壮年さんが震災当時の体験からの気づきを語りました。

続いて、根本外務部長の挨拶、庭野光祥次代会長が講話を述べました。

次代会長は「悲しみは癒えることはないが、信仰により悲しみを力に変えることができる」と述べ、「誰しも自分が一番大事だと思っているが、常日頃から人の幸せのために尽くすことで、自分の心を整えておくと、問題が起きても正しい態度、行動をとることができる」語りました。

最後に、ＲＫＫシンフォニーＫＯＢＥと子供たちが壇上に上がり、会場の参加者と一緒に震災復興の歌「しあわせに運べるように」を大合唱しました。

新成人を中心に献花の儀

庭野光祥次代会長の講話

最後に全員で大合唱

『燈明』『不軽』の書き初めを披露　「御親教」式典にて

1 年の初めとして、庭野会長から会員が直接ご指導を頂く「御親教」の式典が、1 月 7 日に行われました。インターネットを通じて大聖堂での式典に京都教会の会員も参加しました。

式典では、青年女子部員による奉献の儀、庭野光祥次代会長導師による読経供養が行われました。その後、川端理事長の年頭のあいさつがあり、続いて会員代表の「決意の言葉」がありました。

次に「御新教」に立った庭野会長は、今年、戦後 70 年の節目にあたることから、一人ひとりが互いを敬い、礼を尽くすことによって、平和が築かれると語り、二幅の書き初め『燈明』と『不軽（ふきょう）』を披露し、自らを燈明とし、法を燈明とし、常不軽菩薩の仏性礼拝の精神を実践することの大切さを示しました。

その後、佐藤教会長が登壇し、今年から就任した新役員の辞令を授与し、御親教についてかみしめのことばを述べました。

時事刻々

京都市では昨年6月から「空き家活用補助金制度」が始まりました。自治会などが地域での空き家の発生の予防・活用・管理などを進めるための調査や勉強会を行う事業も開始しました▼筆者の居住する地域でも意外と空き家や空き地が増えています。管理が行き届かなくて、近隣の住民に不安を与えているケースも少なくありません▼街の中で暮らしていくには、周囲の人たちとの関係は不可欠です。しかし、人と関わるのはわずらわしいと思っている人も多くいます▼一軒家に住む人も、マンションの住人も、年配者から子供まで、みんなで住みやすい街づくりは大切なことです▼仏教には「諸法無我」という教えがあります。すべてのものごとは関係しあっているということです▼顔を合わせば、挨拶をする。お互いに助け合って生活していく、安穏な暮らしにしていきたいものです。

今月のことば　～「生きている！」という実感～　京洛支部長　越中　身和

今年は、各支部長が順番に担当させて頂くことになりました。今月は京洛支部の越中が担当させて頂きます。宜しくお願いします。

『佼成』２月号では、庭野日鑛会長から**「生きている！」**という実感のご指導を頂戴しております。

前段では、「いま・ここ」に心を向けることが説かれています。私たちはふだん、朝起きてから夜眠りにつくまで、漫然と時をすごすことがままあります。昨今「生きている実感や喜びがわかない」「生きる意味がわからない」といった言葉を聞くにつけ、漫然とすごしがちな日常のなかで、何が生きている実感や喜びにつながるのかを考えさせられます。会長先生は、プラユキ・ナラテボー師のご著書（『「気づきの瞑想」を生きる』／佼成出版社刊）を例にとって、今ここの感覚を味わうことを教えて下さいました。

その具体例として、裸足で歩いているなら、足の裏に感じる大地の感触が地球との一体感をもたらすかもしれないことや、地面を這う虫を気遣うことで、その命の尊さに思いがおよぶことを挙げ、そうしたさまざまな気づきをとおして生きていることを実感すると、ふれあうものすべてが感謝と慈しみの対象になっていきますと教えて下さいました。

仏教では「いま・ここ」を大事にします。**いま命あることの有り難さを知り、感謝して生きるところに幸せがあります**。心のもち方しだいでいつでも味わえるものですが、私たちはどちらかというと、つらく苦しい体験を経て感謝にめざめ、幸せを知ることになると説かれています。

私が今、毎日を感謝し過ごせるようになったのは、苦しい体験があったからです。四十代に結核にかかり４ヶ月入院し、家族のありがたさ、健康に暮らすことの大切さに気づき、元気で長く生きたいという願いをもちました。また五十代に甲状腺ガンの摘出手術を受け、声の出るありがたさに気づきました。それから一日一日を感謝で過ごせるようにならせて頂きました。病気によって、いま命あることの有り難さを知りました。

会長先生は、ほんの少し自分の「いま・ここ」に心を向けて観察すれば生きている実感として喜びと感動を味わえると教えて下さっています。

後段では、生きる喜びを味わうことの大切さが説かれています。**私たちは、人に喜ばれることで生きがいを感じたり、生きる力がわいてくる**のです。庭野日敬開祖は、「人が『働く』のは、『傍を楽にする』ため」といい、そういう気持ちで一所懸命に働いていると、何より自分が楽しくなるといわれました。

それは打ちこむことがある喜びとともに、それによって人に感謝され、喜ばれることで得られる幸福感に違いありません。本会では、何かを行う際に「する」ではなく「させていただく」という表現をよく使います。これもある意味では、生きている実感につながる一つのキーワードですと教えて下さいました。

私は支部長のお役をさせて頂いて、今年で７年目を迎えました。これまで中央支部で３年間、伏見支部で２年間、昨年から京洛支部でお役をさせて頂いています。それぞれの支部で多くのご縁を頂き、常に謙虚な姿勢を忘れてはならないことを学びました。

これからも、ご入滅の直前まで布教伝道に歩かれた釈尊のように、怠ることなく元気に喜んで「生きている！」という実感を味わいながら精進していきます。

合掌

新年を迎え、一年の精進を誓い合う　～元旦参り～

１月１日６時 30 分、京都教会において「元旦参り」の式典が行われました。

新年を迎えた感謝の気持ちをもって読経供養を行い、佐藤教会長が「仏教の三宝帰依を基本とし、各々が『テーマ』をもって精進する」との庭野日鑛会長の「年頭誓願文」を代読しました。

その後、早朝より駆けつけて頂いた門川大作京都市長、前原誠治衆議院議員から新年のあいさつを頂き、参拝に来られた国会議員・地方議員の紹介がありました。

最後にあいさつに立った佐藤教会長は、戦後 70 年になり、争いのない平和な国づくりをしていこうと述べ、教団方針をもとに、教会として「善き師・善き友・善き教えを信じ　育てよう若い力！　発揮しよう皆んなの力！」を今年の目標にすると述べました。

◆明社のコーナー

終い天神の北野天満宮で街頭募金

昨年 12 月 25 日、終い天神でにぎわう北野天満宮において、京洛地区明社と右京地区明社による街頭募金活動が行われました。この活動は、困っている人たちにいい正月を迎えてもらいたいと、二つの地区明社が毎年実施しています。

今年は 11 時から 12 時までが京洛明社、12 時から 13 時までを右京明社が実施しました。小中学生の 5 人を含み、延べ 30 名が街頭に立ちました。

まだまだ景気の回復は一般市民にまで行き渡っていないようですが、小中学生の子供たちの元気な掛け声に引かれ、北野天神にお参りする方から激励の言葉と多くの善意を頂きました。

2 時間ほどで 45,422 円の募金が集まり、その日のうちに京都共同募金会に持参・寄付されました。後日、同募金会から、地区明社に丁重な礼状が送られました。

京洛明社のメンバー

右京明社のメンバー

明社リーダー　提唱者の理念を学ぶ

1 月 11 日、京都・明るい社会づくり運動（明社）連絡協議会は、全国明社の原事務局長を講師に招き、明社リーダー学習会を開催しました。

この学習会は今年数回に分けて実施されます。今回はその初回として明社がなぜ始まったのかについて学びました。提唱者の庭野日敬師は、この社会はモノが豊富になり便利になっても、心で滅びるのではないかという危惧をもっておられました。

一般的に欲望・欲求が充足されたときに、人々は幸せになると思われています。しかし、モノの豊かさを追求するあまり、欲望は膨れ上がり、どこまでいっても不足・不満を持ち続けています。このような生き方から、欲望を少なくし、満足する意識を持つこと（少欲知足）への切り替えが必要で、明社はこのような価値観をもった人々を広げるために始められたということを学びました。

五戒を守れば、世界は平和に　庭野日敬開祖著「救われた喜びがほとばしる」より

「一人ひとりの心がけによって世界は変わる」という信念をもって、世界平和のために奔走された庭野日敬開祖。その著書から『自分たちにできることは何か』を考えてみましょう。

……

世界平和ということを考えた場合、仏教には五戒の教えがあります。

五戒の一番目の不殺生(ふせっしょう)戒は、人を殺さない、すべてのものの命をむだに断つようなことはしないという戒めです。この不殺生戒を一つ守るだけで、世界平和がすぐにできるわけですね。

二番目は不偸盗(ふちゅうとう)戒。泥棒をしないという戒めです。人のものを盗むとか、よその国のものを無法に奪い取るようなことがなくなれば、世界の争いはなくなります。

三番目は不邪淫(ふじゃいん)戒です。エイズという恐ろしい病気も、仏教が広まって、不邪淫戒を守れば解決できるのです。

四番目は不妄語(ふもうご)戒。うそをつかないという戒めです。みんながうそをつかず、信頼しあえるようになれば、何の心配もなく安らかな気持ちで暮らせます。

一つの例をあげれば、日本のように戦争放棄を誓う憲法を掲げている国は、世界中あっちもこっちも軍隊を持っている国々のなかで、いつ攻められるか分からない。心配すれば心配のたねはつきないのです。

（相手を疑うのでなく）相手を信じて「自分たちは戦争はしない」と言いきって、世界の国々の信用が得られると、どこの国も戦争をしかけてこない。

それから五番目が不飲酒(ふおんじゅ)戒です。現代の生活にあてはめていうと、絶対にお酒を飲んではならないというのではなくて、「お釈迦さまは、薬になる適量のお酒ならいいと、ただし書きをつけてくださっている」。

とにかく、仏教はすべての人を安心させるのが奥義なんです。人を心配させるようではだめなんです。

「この教えを守って、ご指導いただいたとおりにやっていれば何の心配もいらないんですよ」

と、そういう自信を持って説かなくてはならないのです。

◆青年部のコーナー　　２つの成人式

新成人を祝うボランティアに参加　～京都市成人の日記念式典にて～

１月 12 日、みやこメッセで「京都市成人の日記念式典」が行われ、青年部員と法輪クラブ会員がボランティアとして参加しました。毎年恒例になっていますが、今年も第一部・第二部と合わせて約 8000 人の新成人が参加し、雪が降る中でしたが、笑顔いっぱい元気にボランティアを務めました。

青年部員の 14 名は、会場内外で新成人の誘導・案内を行いました。法輪クラブの方々は 12 名が姓名鑑定を行いました。行列ができるほどの多くの新成人が自分の運勢やこれからの生き方について熱心に聞き入っていました。

館外での誘導･案内

新成人の姓名を鑑定

支部サンガが集まって新成人を祝う　～第 49 回京都教会成人式～

１月 25 日、京都教会において第 49 回成人式が行われました。午前中は法座席で第１部式典が、午後から地下３階の体育室で第２部パーティーが行われ、新成人 11 名と家族・親族、会員が多数集まって、楽しく有意義な時間を過ごしました。

今年の成人式は「今 ここから 心から　～自覚・行動感謝～」がテーマ。新成人に『今』『ここから・この場所から』自分にできることを見つけ、『心から』の感謝をもって行動してほしいと呼びかけました。

第１部の式典では、感謝のご供養を行い、成人者代表による「誓いの言葉」、成人者への記念品授与の後、佐藤教会長のお言葉をいただき、支部別に成人者を囲んで法座が行われました。

第２部は、新成人を囲んで楽しく歓談しました。中でも壇上で、家族が「成人者へのメッセージ」を読み上げ、調節手渡すシーンには感動を覚えました。

最後に成人者一人ひとりが「今後の抱負」を述べ、参加者全員で『ようかい体操』を踊って、成人式を締めくくりました。

2～3 月の主な教会行事

2 月 1 日(日)	9:00～	朔日参り・布薩の日
1 日(日)	13:00～	節分会
15 日(日)	9:00～	涅槃会
3 月 1 日(日)	9:00～	朔日参り・布薩の日
5 日(木)	9:00～	創立記念日
18 日～24 日		春季彼岸会（各支部）

●メッセージ

毎年、京都教会の成人式は、一年前にお祝いをしてもらった成人者が実行委員を務めることが恒例になっています。今年の成人式は 49 回になりますから、今回の新成人が来年､50 回目の成人式を受け持つことになります。何事も、人から人へと受け継がれ、積み重ねていくことが大切だということを教えられました。